

Title	『日本十進分類法新訂 10 版』の検討(その(5)): 0 類総記
Author	川瀬, 綾子 / 村上, 泰子 / 米谷, 優子 / 北, 克一
Citation	情報学. 12 卷 2 号, p.39-52.
Issue Date	2015
ISSN	1349-4511
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学創造都市研究科情報学専攻
Description	
DOI	

Placed on: Osaka City University

『日本十進分類法新訂 10 版』の検討 その(5)

—0 類 総記—

A Critique of the Nippon Decimal Classification, 10th Edition

Pt.5 Class0 General Works

川瀬綾子[†] 村上泰子^{††} 米谷優子^{†††} 北克一^{††††}

KAWASE Ayako[†], MURAKAMI Yasuko^{††}, MAITANI Yuko^{†††}, KITA Katsuichi^{††††}

概要：日本図書館協会分類委員会により、『日本十進分類法新訂 10 版』が 2014 年 12 月発行された。1995 年 8 月の『日本十進分類法新訂 9 版』の刊行以降、概ね 20 年ぶりの日本十進分類法の改訂である。

今後の日本図書館界の主題組織化を担う『日本十進分類法新訂 10 版』のうち、本稿では、「0 類 総記」について、検討を進めた。

キーワード：日本十進分類法新訂10版、NDC

Keywords：Nippon Decimal Classification 10th Edition, NDC

1 はじめに

2014 年 12 月に『日本十進分類法新訂 10 版』(以下、『NDC10』、以下、他版も同様)が刊行された¹。1995 年 8 月刊行の『日本十進分類法新訂 9 版』以来、概ね 20 年ぶりの改訂である。

今後の日本図書館界の主題組織化を担う『NDC10』について、検討を進めたい。なお、本稿では多面的な検討内容の内、「0 類 総記」及び「情報学」について検討を行う。

筆者の内 3 名は、先に 2014 年 3 月開催された「日本十進分類法 新訂 10 版(試案)」関西説明会に参加し、そこで「試案」について提言、指摘した内容を再構成し、まとめた²。

本稿では、『NDC10』の「本表・補助表編」に収録されている「各類概説」³を手掛かりに、「0 類 総記」の全体構造を確認し、その後、「0 類 総記」を構成する 3 分野の要素及び細部構造を検討する。また、『NDC9』よりも整理された「情報学」の展開を検討した。併せて、先に提言でまとめた

[†] 京都精華大学

^{††} 関西大学

^{†††} 大阪市立大学・関西大学等

^{††††} 相愛大学

事項がどのように取り入れられたかも検証する。

2 『NDC10』における「0 類 総記」の構造について

本章では、「0 類 総記」を構成する要素について概観する。『NDC10』の「0 類 総記」を構成するのは「各類概説」によると、以下の 3 分野である⁴。

- 1) <知識の宇宙>全体にかかわる知識、学問一般(002)および情報学(007)
- 2) 1 類から 9 類に列挙されなかった学術・研究分野；図書館(010 / 019)、図書・書誌学(020 / 024)、逐次刊行物(050)、博物館(069)、ジャーナリズム(070)の諸著作。
- 3) 主題を横断する総合的な資料・情報；(その形式により)書誌(025 / 029)、百科事典(031 / 038)、用語索引(039)、一般論文集(040 / 048)、雑著(049)、雑誌(051 / 058)、年鑑(059)、学会・団体(060 / 065)、新聞(071 / 077)、叢書(080 / 089)に細分。

このように「総記：0 類」では多くの下位区分が列挙されているため、「交通整理」として『NDC10』の第 3 次区分表を参考に引用する⁵。

なお、「中間見出し」⁶は「各類概説」に従い埋め込んだ。また注釈が必要な個所は括弧に挿入した(本文末尾の別表 1)。

2.1 0類における2種類の間見出し

このように整理をしてみると、0類の間見出しには、2種類のものがあることが明示される。<010/019 図書館>、<040/048 一般論文集>、<060/065 学会・団体>、<080/089 叢書>のように綱目表のレベル(例えば、04)からが、範囲指定となっている場合、2)<031/038 百科事典>、<051/058 雑誌>、<071/077 新聞>のように、<xx1>からが範囲指定となっている場合である。

「各類概説」では言及はないが、注意深く本表末尾の別表 1 総記(000/099)の構成を観察すれば、記号に対応する実際の資料・情報が存在するか否かによる相違と考えられる。すなわち、百科事典は原著の言語により下位区分されるが、言語一般により記述された百科事典は存在しない。同じく「雑誌」も言語区分であるし、「新聞」は発行地による地理区分である。逆に、「図書館」一般、「一般論文集」、「叢書」一般は資料として存在する。

こうした相違は明確に「各類概説」及び本表に明確に記述するのが適切と考える。

2.2 0類における3種類の分野

本節では、0類における3種類の分野について、順次に検討を進める。

2.2.1 <知識の宇宙>全体にかかわる知識、学問一般および情報学

「各類概説」によれば、0類における第一の分野は、「<知識の宇宙>全体にかかわる知識、学問一般および情報学」である。ここでこの文章の表現は、次の2通りに解釈ができる。

- 1) 全体に関わる知識、全体に関わる学問一般、全体に関わる情報学
- 2) 全体に関わる知識、学問一般、情報学

ここで1)の意味であれば、<知識の宇宙>—実際にNDCが対象とするのは<文献宇宙>だが—を統べるのは、知識、学問、そして情報学となる。古代の知識体系における神学や哲学の位置づけを持ち出すまでもなく、この言説であるならば神学、

哲学に代わる諸学の源としての情報学が存在する、ということであろう。ただし、分類表は作成者(機関)の世界観の反映である。

一方、2)の意味であれば、「007 情報学」は「1類から9類に列挙されなかった学術・研究分野」ということになる。しかし、0類における3種類の分野の筆頭位置での「情報学」への言及は、やはり前者—諸学の源としての情報学—という認識なのであろうか。実際に、「各類概説」では、「知識や科学一般を取扱い処理するための情報理論(007.1)」という表現があり、諸学問の母とされた哲学の地位を継承したかのようなようである。

一方で、5類における「547 情報通信」、「548 情報工学」との間の大幅な別法の相互埋め込みは、単なるプラグマティカルな記号操作のようにも感じられる。『007 情報学』は『NDC9』からの展開である。ただし、その内実は大きく拡張がされた。

2.2.2 1類から9類に列挙されなかった学術・研究分野

次に、「1類から9類に列挙されなかった学術・研究分野」について、いくつかの検討をしておきたい。

2.2.2.1 「018.09 文書館. 史料館」の新設下位区分について

「018.09 文書館. 史料館」の次の下位区分は、プラス印(+)が付されているので、『NDC10』において新たに新展開がされた分類記号である⁷。「各類概説」では、「文書館(018.09)については、その運営にかかわる項目を細分できるようにしている。」と述べている⁸。本表での展開は本文末尾の別表2の通りである。

第一に、「018 専門図書館」の注記に「*綱目表に準じて細分」とあるので、「018.9」は「文学図書館(文学館)」となり、記号使用ができないので、記号法上で「018.09」を文書館に割り当てたのは止むを得ないと考える。しかし、分類項目の「文書館. 史料館」は、「018 専門図書館」とインデクションは同位ではないだろうか。逆に、「文書館. 史料館」が「018 専門図書館」の下位区分であれば、「018 専門図書館」の注記に従い分類構築を

行えばすむ。

また、<.096/.098 各種の文書館>の展開である「.096+ 文書館」以下の3区分の棲み分けが不明確である。具体的には、「.097 学校文書館. 大学文書館」及び「.098 専門文書館」以外の文書館に関する事項は、すべて「.096 文書館」でよいのか。例えば、日本の国立公文書館は地理区分を付して、「096.021」か、大阪府公文書館は日本地方区分を付して「096.02163」で適切なのか、特にこうした新設部分に関しては、「各類概説」で丁寧な解説を望む。

2.2.2.2 「023 出版」について

『NDC10』の本表では、「023 出版」の第2注記に「*電子出版 <一般>、電子書籍 <一般>は、ここに収める」⁹との指示がある。しかし、前提としての「電子書籍」の範囲が明確ではない。例えば、湯浅は電子出版物について電子辞書、CD-ROM、DVD、電子書籍、電子雑誌(電子ジャーナル)、ケータイ小説、デジタル化資料、検索エンジン提供辞書、有料データベースなどを例示し、解説を行っている¹⁰。

さらには、各種アーカイブサイト(電子情報の貯蔵庫)、ネットワーク情報資源などへ視線を広げていくと、どこまでが、出版物の範囲かがあいまいとなってくる。また、電子書籍を事例としても、最近ではダウンロード型の電子書籍に留まらず、ストリーミング型の電子書籍も登場している。さらには、音声や映像をも収録したマルチメディア型のコンテンツも徐々に普及し始めている。

ここでは観点分類表である『NDC10』の基本に立ち返って、出版学の観点から「電子コンテンツ」を扱った資料・情報はここに収める、とするのが適切ではないだろうか。

また、「各類概説」では、「電子書籍については閲覧用のソフトウェアおよび端末等のハードウェアについてもここに収める。ただしそれらを他種のものと同列に扱いたい図書館には、別法を設けている」¹¹とある。一方、本表においても、「電子書籍閲覧用のソフトウェア・端末は、ここに収める(別法：閲覧用ソフトウェア 007.63；閲覧用端末 548.295)」とある¹²。

電子書籍については、1) コンテンツ(群)と特定

アプリケーションをバインドしている電子書籍、2) 汎用アプリケーションで読む電子書籍(例；EPUB規格などの電子書籍)、3) 汎用ブラウザで読む電子書籍、など電子書籍を取り巻く情報環境は「百家争鳴」の状態にあり、また、流動的でもある。

幸いに「023 出版」は空番が多くあり、今後の展開余地がある。現時点では少なくとも、制作側の電子出版と完成物としての電子書籍、電子雑誌などは「023 出版」の下位区分に展開をしておくほうが適切と考える。

2.2.3 主題を横断する総合的な資料・情報

次に、0類を構成する分野のうち、主題を横断する総合的な資料・情報の関連についても検討を行う。

2.2.3.1 「038 百科事典；ロシア語」の下位区分について

『NDC10』本表の「038 ロシア語」及びその記号法上での下位区分は本文末尾の別表3のように展開している。

ここで、名辞のインデクションを見ると、「038 ロシア語」の下位区分に「038.9 その他のスラブ諸語」と「038.999 その他の諸言語」が、同位概念レベルで並置している。しかし、「038.999 その他の諸言語」は、本来は「039」の記号法をあてるところを、本表中で「039 用語索引」がすでに存在するため、止むを得ず「038.999」の記号法を割り当てたものである¹³。

またこのことは、「8類 言語」(本表末尾の別表4)を参照すれば明白である。

なお、一般補助表の言語区分では、本表末尾の別表5のようになっており、この言語区分を「038.999 その他の諸言語」にそのまま付加すると、「038.999 + 932 = 038.999932」となり、「.999 その他の諸言語」の注記である「*891 / 899のように言語区分」と合成結果が異なるので、注意が必要である。

2.2.3.2 「070 ジャーナリズム. 新聞」と「361.453 マスコミュニケーション. マスメディア」及び「699 放送事業：テレビ. ラジオ」につ

いて

3つの分類区分について取り上げておく。「070 ジャーナリズム. 新聞」の第一注記に「*新聞、テレビ、ラジオなど総合的なマスコミ事情・報道<一般>は、ここに収める。」¹⁴とあるので、新聞、テレビ、ラジオなどマスコミ(マスメディア)全般は070に分類すると考えられる。より一般化すれば、情報学の観点からマスメディアを扱ったマスメディア論は、「070 ジャーナリズム. 新聞」に分類されると思慮する。なお、070の項目名は、「ジャーナリズム. マスメディア」が適切と考える。

次に、「361.453 マスコミュニケーション. マスメディア」については、その階層性をも確認しておく(本表末尾の別表6)。

ここから「361.453 マスコミュニケーション. マスメディア」は、「社会学__社会心理学__コミュニケーション理論__マスコミュニケーション. マスメディア」の系に属するので、社会心理学の観点からコミュニケーション理論の対象として、マスコミュニケーション. マスメディアを対象とする主題を扱うことになる。

他方、「699 放送業: テレビ, ラジオ」の階層性についても確認を行う(本表末尾の別表7)。

「699 放送業: テレビ, ラジオ」において、「070.14 ジャーナリズムと社会. 報道・新聞と世論. 新聞と読者」と相互参照があるが、他の<699.1 / 699.7>は産業__通信事業内部で完結をしている。

2.2.3.3 「<071 / 077 新聞紙>」について

「各類概説」で「新聞紙は、発行地による地理区分を行う。」とあり、本表にも「*発行地による地理区分」指示がある。例として、「071 日本発行の新聞紙」、「072.2 中国発行の新聞紙」、「073.4 ドイツ発行の新聞紙」が示されている。ただし、この地理区分の指示は日本地方区分まで展開が可能であるのかが、少し疑問である。また、地理区分指示の「発行地」の意味は、発行新聞社の本社の意味であろうか。物理的な印刷地という意味では、日本の全国紙などは複数の印刷拠点を持つ。

また、前述の「023 出版について」とも重なるが、電子新聞の場合には発行地はサーバの設置場

所なのであろうか。丁寧な解説を要する。

3 情報学

続いて、「007 情報学」の検討を行う。当該分野は、2013年11月開催の「日本十進分類法(NDC)新訂10版試案説明会」¹⁵においても、0類の「007 情報学」、および5類の「548 情報通信」、「694 電気通信事業」について、「情報学」及び関連領域としてまとめて説明がされたところである。

まずは、「各類概説」の情報学の箇所を参照しよう。

情報学(007)は、知識や科学一般を取り扱い処理するための情報理論(007.1)、情報と社会とのかかわり(007.3)、情報処理(007.6)が大きな部分を占めている。この分野は工学や産業と不可分であり、情報通信・情報工学(547 / 548)や電気通信事業(694)に分類をしたほうが適切な場合もある¹⁶。

このように「各類概説」では、情報学(007)と、情報通信・情報工学(547 / 548)及び電気通信事業(694)との密接な関係について言及している。しかし、電気通信事業(694)については、次のように複数の注記で「棲み分け」をしたのみである。なお、その事項が他の分類項目と関連性のあることを表示した注参照が、「→: 007.35: 547: 548」と付されている¹⁷。

694 電気通信事業

*ここには、電気通信産業(各種事業者に関するものやその歴史的経緯を含む)に関するものを収め、情報ネットワーク<一般>および情報と通信を扱う産業・事業は007.35に、工学的な取扱いに関するものは547に、機器に関するものは548に収める。(以下、略)

このように、大幅な別法を相互に取り入れたのは、結局のところは情報学(007)と情報通信・情報工学(547 / 548)の間においてである。これについて、以下に検討を進める。

3.1 情報学(007)と5類との別法

まず情報学(007)の骨格を本表で確認しておく(本表末尾の別表 8)。

一方、参照先の「情報工学 548」、「情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク 547.48」も確認しておく(本表末尾の別表 9)。

このように「007 情報学. 情報科学」と「548 情報工学」及び「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」との間には、確かに相互参照が埋め込まれている。ただし厳密には、不使用分類記号から「をみよ参照」で 548 及び 547.48 が指示されているのに対して、5 類側では「*別法」の形式で 007.8 及び 007.9 が示されている。分類表上は、完全な等価相互参照ではない。

では、「548 情報工学」及び「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」の内実は、「007 情報学. 情報科学」と対応をしているのであろうか。次節で検証する。

3.1.1 「007 情報学. 情報科学」と「548 情報工学」の対比

「007 情報学. 情報科学」では、「[.8] 情報工学 →548」として、不使用分類記号と共に「をみよ参照 →548」がついている。一方、「548 情報工学」では、007 への「をみよ参照」の分類記号を除いた骨格は、本表末尾の別表 10 の通りである。

このように「548 情報工学」の骨格では、「548.2 コンピュータ」を除いては、「007 情報学. 情報科学」と関連性はない。では、さらに焦点を絞り「548.2 コンピュータ」の内実を検討しよう(本表末尾の別表 11)。

このように「548.2 コンピュータ」の内実は、<548.21 / 548.27>のコンピュータ・システムを構成する各種装置(ハードウェア)、及び「.29 各種のコンピュータ(システム)」で構成されている。それ以外には、「[.9] 情報学・情報科学各論」として、007 への「をみよ参照」の元に別法が示されているのみである。『NDC10』では明らかに、情報関連の主たる分野は、「007」側にある。

3.1.2 「007 情報学. 情報科学」と「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」の対比

次に「007 情報学. 情報科学」と「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」について、検討を行う。なお、本表末尾の別表 12 の「をみよ参照」先の分類項目は、理解を助けるために加筆した(本表末尾の別表 12)。

第一に、「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」では、「547.4 有線通信」下に「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」として、ネットワークが位置づけられているが、今日のモバイル・コンピューティング環境の普及もあり、コンピュータネットワークは有線/無線の複合ネットワークと解される。547 自体には空き番号はないが、せめて分類名辞のインデントで不均衡項目であることを明示すべきではないか。

第二に、「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」からの「をみよ参照」先が多く、かつ、問題点を含むことを指摘しておきたい。

- (1) 「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」はあくまで、通信工学の観点からの展開であり、「007.35 情報産業. 情報サービス」や産業的観点からの「694.5 データ伝送. データ通信事業」への「をみよ参照」は、過剰である。
- (2) 「548 情報工学」への参照は、「をみよ参照」先の「守備範囲」が広すぎ、不適切である。
- (3) 「007 情報学」の下位区分への参照が多数あるが、工学的観点からの「コンピュータネットワーク」であるので、「*別法: 007.9」だけで十分ではないか。
- (4) 別法注記¹⁸、「*別法: 007.9」があるが、別法先は「007 [.9] 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク → 547.48」と指示があり、本則は 547.48 である。しかし、「序説」や「使用法」にはこの「別法注記」や注記先の本則への「をみよ参照」の関係が明確に説明されておらず、混乱を招きやすい。

3.1.3 情報学. 情報科学(007)の骨格とその展開 「007 情報学. 情報科学」は『NDC10』におい

て大きく拡張がされた箇所である。では、「007 情報学. 情報科学」の骨格と展開を確認する。

最初に『NDC9』における「007 情報科学」を確認する(本表末尾の別表 13)。

次に、『NDC10』における「007 情報科学」の骨格を対比してみよう(本表末尾の別表 14)。

このように、『NDC9』及び『NDC10』における「007 情報科学」を対比してみると、若干の細部での分類項目の新設や分類名辞の追加があるが、骨格に変更はない。事実としては、「007 情報学」と「547 通信工学. 電気通信」、「548 情報工学」との間を「をみよ参照」と別法の組み合わせで、相互参照的に繕ったにすぎないのではないだろうか。

また、「361.45 コミュニケーション. コミュニケーション理論」、「694.5 データ伝送. データ通信事業」、「801.2 語源学. 意味論[語義論]」などにも「をみよ参照」を入れているのは、評価半ばではないか。分類委員会での今後の検討が望まれる。

4 さいごに

日本十進分類法において、総記(0類)は、1類から9類のいずれにも属さなかった主題及び刊行形式を収める類であり、新訂6版の刊行時から外形式/内形式、形式区分の重ね使用、適用順序などを巡って、多くの議論が重ねられてきたところである。また、『NDC9』刊行後、著しい発展を遂げた情報学分野への新たな対応も必須事項であった。多くの懸案を抱えて、真摯な検討を重ね、『NDC10』の刊行へとこぎつけられた歴代の分類委員会委員の方々に心より感謝申し上げたい。

別表 1 総記(000/099)の構成

000	総記	
002	知識. 学問. 学術 ; (学問一般)	
007	情報学. 情報科学	
	<010 / 019 図書館>	
010	図書館. 図書館情報学	
011	図書館政策. 図書館行財政 (以下、中略)	
019	読書. 読書法	
	<020 / 024 図書・書誌学>	
020	図書. 書誌学	
021	著作. 編集	
022	写本. 刊本. 造本	
023	出版(含む、電子書籍)	
024	図書の販売	
	<025 / 029 書誌. 目録>	
025	一般書誌. 全国書誌 (中略)	
029	蔵書目録. 総合目録	
030	百科事典	
	<031 / 038 百科事典> (by 原著の言語)	
031	日本語 (中略)	
038	ロシア語	
038.999	その他の言語	
039	用語索引	
	<040 / 048 一般論文集> (by 原著の言語)	
040	一般論文集. 一般講演集	
041	日本語 (中略)	
048	ロシア語	
049	雑著 (by 原著の言語)	
050	逐次刊行物	
	<051 / 058 雑誌> (by 原著の言語)	
051	日本語 (中略)	
058	ロシア語	
059	一般年鑑 (by 地理区分)	
	<060 / 065 学会・団体>	
060	団体	
061	学術・研究機関	

	(中略)
065	親睦団体. その他の団体
069	博物館
070	ジャーナリズム. 新聞 (ジャーナリズム一般)
	<071 / 077 新聞> (by 発行地による地理区分)
071	日本
	(中略)
077	オセアニア. 両極地方
	<080 / 089 叢書> (by 原著の言語)
080	叢書. 全集. 選集
081	日本語
	(中略)
089	その他の諸言語
090	貴重書. 郷土資料. その他の特別コレクション

別表2 専門図書館(018)及び文書館(018.9)の展開

018	専門図書館
	*網目表に準じて細分 例: 018.37 教育図書館 (以下、略)
018.09	文書館. 史料館
.091+	文書管理政策. 文書行財政・法令
	(中略)
<.096 / .098	<各種の文書館>
.096+	文書館
.097+	学校文書館. 大学文書館
.098+	専門文書館
	(以下、略)

別表3 「038 百科事典;ロシア語」の下位区分

038	ロシア語
.9	その他のスラブ諸語
	*889のように言語区分 例: 038.98 ポーランド語の百科事典
.999	その他の諸言語
	*891 / 899のように言語区分 例: 038.99932 アイルランド語の百科事典

別表 4 8類 言語(抜粋)

880	ロシア語
889	その他のスラブ諸語
.1	ブルガリア語. マケドニア語 (以下、略)
890	その他の諸言語
891	キリシア語
892	ラテン語
893	その他のヨーロッパの諸言語
.1	ケルト諸語
.2	アイルランド語. スコットランド・ゲール語 (以下、略)

別表 5 一般補助表の言語区分(抜粋)

-8	ロシア語
-89	その他のスラブ諸語 (中略)
-898	ポーランド語
-9	その他の諸言語 (中略)
-93	その他のヨーロッパの諸言語
-931	ケルト諸語
-932	アイルランド語. スコットランド・ゲール語 (以下、略)

別表 6 「361.453 マスコミュニケーション. マスメディア」の階層性

360	社会
361	社会学
361.4	社会心理学 → : 140
361.45	コミュニケーション. コミュニケーション理論
361.453	マスコミュニケーション. マスメディア

別表7 「699 放送業：テレビ，ラジオ」の階層性

690	通信事業
699	放送事業：テレビ，ラジオ
.1	放送政策・行政・法令．受信料
.2	放送史・事情
.3	経営．業務．労務．財政
.6	放送番組：番組編成，視聴率
.7	優先放送：ケーブルテレビ *インターネット放送は，ここに収める
.8	放送と社会 →：070.14 *ラジオ・テレビ報道の社会に与える影響などは，ここに収める

別表8 情報学(007)の骨格

007	情報学．情報科学
.1	情報理論
.2	歴史．事情
.3	情報と社会：情報政策，情報倫理
.5	ドキュメンテーション．情報管理
.6	データ処理．情報処理
[.8]	情報工学 →548
[.9]	情報通信．データ通信．コンピュータネットワーク →547.48

別表9 「548 情報工学」と「547.48 情報通信．データ通信．コンピュータネットワーク」

548	情報工学
	*別法：007.8
547.48	情報通信．データ通信．コンピュータネットワーク
	*別法：007.9

別表 10 「548 情報工学」の骨格

548	情報工学	
.2	コンピュータ[電子計算機]	→ : 007.63 ; 418.6 ; 535.5
.3	自動制御工学. オートメーション. ロボット	→ : 509.69 ; 531.38
.7	シミュレーション	→ : 417

別表 11 「548.2 コンピュータ」

548.2	コンピュータ[電子計算機]	→ : 007.63 ; 418.6 ; 535.5
.21	入力装置 : マウス, タッチパッド, トラックボール	
.22	演算装置 : CPU[中央演算装置], MPU[マイクロプロセッサ]	
.23	記憶装置. 記憶媒体	→ : 007.65
.24	制御装置	
.25	出力装置	
.27	端末装置	→ : 548.295
.29	各種のコンピュータ[電子計算機] (中略)	
[.9]	情報学・情報科学各論	→007

別表 12 「547.48 情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク」の骨格

547	通信工学. 電気通信	
.4	有線通信 (中略)	
.48	情報通信. データ通信. コンピュータネットワーク	
	→ : 007.35 情報産業. 情報サービス ;	
	007.37 情報セキュリティ ;	
	007.609 データ管理 : データセキュリティ, データマイニング ;	
	007.6389+ データ通信用ソフトウェア	
	*別法 : 007.9	
548	情報工学	
694.5	データ伝送. データ通信事業	→ : 007.3 ; 547.48

別表 13 『NDC9』における「007 情報科学」の骨格

007	情報科学	→ : 010 図書館・図書館学
.1	情報理論	
.2	歴史. 事情	
.3	情報と社会 : 情報政策	
.35+	情報産業. 情報サービス	
[.4]	情報源	→007.1
.5	ドキュメンテーション. 情報管理	
.6	データ処理. 情報処理	
.609+	データ管理	
	*データベースの保全は、ここに収める	
.61	システム分析. システム設計	
.63	コンピュータ システム. ソフトウェア	
.64	コンピュータ プログラミング	
.642+	コンピュータ グラフィックス	
	(以下、略)	

別表 14 『NDC10』における「007 情報科学」の骨格

007	情報学. 情報科学	→ : 010 図書館・図書館学 ; 548 情報工学
.1	情報理論	→ : 007.636 言語情報処理 ; 801.2 語源学. 意味論[語義論] *別法 : 548[.1] 情報学. 情報理論
.2	歴史・事情	
.3	情報と社会 : 情報政策, 情報倫理	→ : 361.45 コミュニケーション. コミュニケーション理論 547 通信工学. 電気通信 694.5 データ伝送. データ通信事業
.35	情報産業. 情報サービス	
[.4]	情報源	→007.1
.5	ドキュメンテーション. 情報管理	
.6	データ処理. 情報処理	
.609	データ管理 : データセキュリティ, データマイニング	
	*データベースの保全は、ここに収める	
	*データベース作成用ソフトウェアは、ここに収める	
.61	システム分析. システム設計. システム開発	
.63	コンピュータ システム. ソフトウェア. ミドルウェア. アプリケーション	
	→ : 548.2 コンピュータ[電子計算機]	
.64	コンピュータ プログラミング	
.642	コンピュータ グラフィックス	
.645+	マークアップ言語. ウェブサービス記述言語[WSDL]	
	(以下、略)	

1 もり・きよし原編, 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂 10 版』日本図書館協会, 2014.

2 米谷優子, 川瀬綾子, 北克一「日本十進分類法 新訂 10 版試案の検討」『情報学=Journal of Informatics』11(1), 2014., p.44-50.

URL:<http://kiyo.info.gscc.osaka-cu.ac.jp/JI/article/view/694> [2015-09-20 確認]

3 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.35-44.に収録の「各類概説」

4 『NDC10』、「本表・補助表編」の「各類概説」 p.35-36.

5 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.53.

6 中間見出し「分類記号 / 分類記号 項目の名辞」がフランスバーレン(< >)で囲まれている見出し。当該項目の下位に属する分類項目の分類記号の範囲を示すことにより、階層関係を明示している。『NDC10』、「本表・補助表編」の「細目表」 p.68.

7 『NDC10』、「本表・補助表編」の「凡例」に「10 版で新設された分類記号には、その右肩にプラス印(+)を付した。」(p.65)とある。

8 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.35.

9 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.83.

10 湯浅俊彦著『電子出版学—出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ— 改訂 3 版』出版メディアパル, 2013.3.

また、次を併せて参照。日本図書館情報学会研究委員会編『電子書籍と電子ジャーナル』(わかる! 図書館情報学シリーズ; 1) 勉誠社, 2014.11.

11 『NDC10』、「本表・補助表編」の「各類概説」(p.35)

12 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.83.

13 ここで、「038.9 その他のスラブ諸語」に「*889 のように言語区分」と言語区分に対する注記が付されている。そこで「889 その他のスラブ諸語」を本表で参照すると、次のようになっている。

889 その他のスラブ諸語

- .1 ブルガリア語. マケドニア語
(中略)
- .8 ポーランド語
- .9 バルト諸語

よって、ポーランド語の百科事典は、03 + 898 = 038.98 となる。また、アイルランド語の百科事

典は、「893 その他のヨーロッパの諸言語」を参照する。

893 その他のヨーロッパの諸言語

- .1 ケルト諸語
- .2 アイルランド語. スコットランド・ゲール語

よって、アイルランド語の百科事典は、039 + 32 = 039.32 となるはずである。しかし、「各類概説」に指示があるように、「言語区分 -9 その他の言語については、例外的に 039 ではなく、038.999 を使用する」とある。そこで、038.999 + 32 = 038.99932 となる。

逆の考え方としては、「039 + 32」の公式の「039」に「038.999」を代入し、「038.999 + 32」とする、と考えるほうが理解をしやすいかもしれない。

14 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.88.

15 日本十進分類法(NDC)新訂 10 版試案説明会(プログラム)を抜粋で示す。

日時:2013年3月11日(火) 13:00-17:00
プログラム(抜粋)

13:00- 説明会開催にあたって

NDC10 版の構成、補助表、
相関索引について

13:30-16:00

NDC10 版試案概説

報告 1) 1, 2, 6 類

報告 2) 3, 4 類

報告 3) 0, 5 類

報告 4) 情報学および関連領域

報告 5) 7, 8, 9 類

なお、当日配布資料は、次である。日本図書館協会分類委員会『日本十進分類法 新訂 10 版-試案説明会資料-』2013年11月, 92p.

16 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.35.

17 『NDC10』、「本表・補助表編」 p.361. ちなみに「電気通信事業(694)」からの参照先は、次である。

「007.35 情報産業. 情報サービス」 → :
547.48 ; 694

「547 通信工学. 電気通信」 → : 007.3 ;
427.7 ; 694

「548 情報工学」 → : 007 ; 547.48 ; 694

18 『NDC10』、「相関索引・使用法編」の「用語解説」(p.305)には、次の「別法注記」の語がある。

別法注記 NDCにおいて、別法が設けられている項目には「*別法:」を介して分類記号などが注記されており、また別法に指示された分類項目には分類記号を角括弧で囲んで表示され、本則への「をみよ参照」が付されている。

また、用語「「をみよ」参照」も見ておく。

一方参照または直接参照ともいう。NDCでは、二者択一項目における別法の分類記号から通常に使用する分類記号への指示、形式区分の縮約関係の指示、排除注記における参照において、矢印(→)を用いて明示している。 → : 参照

*なお、第1刷では、「→:参照」(「をもみよ参照」)記号の誤植あり。